

## 第16回 奥むさし駅伝競走大会

### 【出場結果】

実施日 : 1月28日(日)

コース : 東飯能駅西口前～西吾野駅前折返し～飯能市内銀座通り(きもの処かきめま前)

総距離 : 6区間 38.6km チーム成績 : 2時間01分50秒 11/147位

出場者・リザルト	:	1区	松本 流星	30/147位	32分20秒
		2区	小原 大輔	5/147位	16分59秒
		3区	佐野 雅治	23/147位	14分28秒
		4区	松谷 公靖	9/147位	14分02秒
		5区	渡辺 瑠偉	1/147位	15分07秒
		6区	土屋 天地	5/147位	28分54秒

### 【レポート】

当日は先週降った雪の影響が心配されましたが、薄曇りで少々肌寒い中、駅伝にはまずまずの条件となり、高校一般併せて213チームが一斉にスタートしました。



# ShinDengen /

当社チームはレース一週間前に故障者発生により1区走者を変更することとなり、チーム状態に不安を残す中で当日を迎えることとなりましたが、その不安が的中し、いきなり苦戦を強いられることとなります。

今回1区を任された松本は落ち着いて慎重にレースに入ったかに見えましたが、駅伝の1区に不慣れなこともあり、各チーム強豪揃いの1区で、序盤から先頭に大きく離される展開、最後まで精彩を欠く不完全燃焼の走りで先頭に2分52秒の大差をつけられる非常に苦しいスタートでレースが始まりました。

思いもよらない順位でタスキを受けた2区の小原でしたが、これに動揺することなく、レースを仕切り直そうとストライドの大きなフォームで懸命に前を行く選手達を追って順位を上げていきます。



小原は最後まで崩れることなく区間5位の走りで、次走者以降にこのままの勢いが伝わり流れが変わるかと思われましたが、ここで更なるアクシデントが発生します。

第2中継所のタスキ渡しの際に次走者が中継点にいないという、駅伝において決して犯してはならないミスにより30秒以上タイムをロスし、ロスタイムは次走者が背負うものの、小原がここまで必死に抜いてきたチームに再び先行を許す悪い流れとなりました。

# ShinDengen

今回、長期故障状態ながらも急遽 3 区を走ることになった佐野はアクシデントもあり、30 秒以上ロスタイムを背負う中で、本来の調子では無いながらも何とかタスキをつなぎます。この時点で先頭からは 4 分 13 秒差の一般の部 19 位でレースを折り返します。



下りに入って 4 区の松谷も区間 9 位と堅実な走りで 2 つ順位を上げ、一般の部 17 位としますが、先頭からは更に差を広げられて 4 分 45 秒差と引き離されてしまいます。

続く 5 区を走るのは新人の渡辺で、年明けに行なった冬季合宿ではチームで一番調子が良く、その後も順調に駅伝に向けて状態が仕上がっていました。

渡辺は入社後一番の状態そのままに快調なペースを刻み、一般の部で 4 人を抜いて順位を 13 位へ押し上げ、先頭との差も 37 秒縮める見事な区間賞の走り、ここまでのチームの悪い流れを全て断ち切ってアンカー土屋に元気を与える快走を披露しました。

最終 6 区はロード走が得意で最近の練習では本来の調子を取り戻してきた土屋が終始安定したペースでレースを進めて区間 5 位の力走で 2 人を抜いたものの、入賞の 10 位には僅か 6 秒及ばず 11 位で無念のゴールテープを切り今年のレースを終えました。

# ShinDengen /



## 【総括】

今回、スタートの1区から大幅に先頭から離される苦しい展開となり、更にチームとして犯してはならない中継ミスによってタイムをロスした結果、2年連続で入賞を逃すこととなりました。

今大会は地元レースということもあり、当日寒い中を沿道より大勢の皆様に応援頂いたにも係らず、このような不甲斐ないレースをお見せしてしまい申し訳ありませんでした。

今回の結果をチーム一同重く受け止めており、多くの反省がありますが、一方で個々人の走りを見れば区間一桁が4区間と、そこまで悪い走りではありませんでしたので、今後一人ひとりがミスなくしっかり走れば上位進出も狙えることは確認出来ました。

また、新人の渡辺が奥むさし駅伝で当社として久々に区間賞を獲得し、悪い中でも一矢報いてくれた点は今後につながる収穫でした。

近年、奥むさし駅伝は有力実業団チームや箱根駅伝に出場した大学選手の出場が増え、年々レベルが上がっておりますので入賞さえもなかなか叶いませんが、今年の悔しさを胸に来年は先頭争いに加われるよう、また一から地道に取り組んで参ります。

なお、奥むさし駅伝に続き、来週2月4日(日)には埼玉県駅伝が開催され、これをもって今年度の駅伝シーズンも締めくくりとなりますので、良い形で終わられるよう、今回のレースを活かせるように準備して参ります。

最後になりますが、本年も早朝から沿道に駆け付けていただき、ご声援を頂きました、鈴木社長、堀口工場長、田中取締役をはじめとする役員の皆様、会社関係者の皆様、本大会の役員としてご尽力いただいた会社関係者の皆様に、あらためましてチーム一同、御礼申し上げます。

今後も一丸となって、精一杯活動して参りますので、引続きまして、ご声援賜りますよう宜しくお願い致します。有難う御座いました。

以 上